

今度此様なことを仕たら承知せんぞ』大きに何うも相濟まぬこととござります……コレ汝も黙つて居んと詫れ汝れが仕たことぢやないか、馬鹿ぢやなア汝りやア、茶店の親方に駕籠を勧めると云ふことがあるものか』然うぢやけれど彼の人も然うぢやないか、乃公ア茶店の者じやと言ふて呉れたら、乃公ア勧めやアせなんだのや』けれども顔を知らないでも、大概い風體を見ても判る、向掛付きの高下駄穿いて二巾前垂して居る、片手に塵取持つて居る、向ふの松の根元へ塵を棄かしに行たんぢやがな高下駄穿いて塵取持つた人が駕籠に乗るかいな、大概風體を見ても分つて居るやろう』ナニ其様に言ふて呉れるない、お前には眩かれ、彼の人にやア襦袢に言はれ、云草で乃公アモウ満腹した、足と頭を持って糞結びにして遣るなんで、まるで昆布か、干瓢みたいに言われてるね』確かりせい阿呆奴が……ヘエ旦那駕籠は要りまへんか、お安う参ります、何うでござりますな、エ、旦那要りまへんか』折柄此處へ出て参りましたのは、マア其頃ほひの三文字屋、伊丹屋と言ふやうな大きな處へ這入たのではござりませぬが、分銅屋、惠比須屋と言ふやうな處で一杯召上つたと見へて口の邊は遠乗りの馬ア見たやうに泡だらけにして』ヨイシヨコラ、ヨイ〜ヨイト……』高い山から低い山を見れエは、低い山の方が低うござる、ヨイシヨコラ、ヨイ〜ヨイト……』妙な俗語唄うて來たぞ、相手になるなよ』モシ旦那お駕籠要りまへんか、モシ御酒機嫌の旦那、お駕籠は何うでやす』ヤイ相手になるなつてのに』イヤ此様な人が乗るわいな』イヨ一是は駕籠屋の親玉ア』ヤア出て來た出て來た旦那、甚

い御機嫌でござりますなア』御機嫌で飲んだ酒か、糞自暴で飲んだ酒か知つてるかい』イエ夫れは分りまへん』分らんのに要らざることを言ふたら承知せんぞ』ソレ見い叱られてくさる』旦那、お駕籠は何うでやす』イヤお駕籠が何うつて、馬がドーぢや、駕籠がハイぢや』イエ然うぢやぢわせん、お駕籠は要りまへんかと、お尋ね申して居ますので』イヤ此様な物貰つた所が持つて行くのが大儀じや』ウダ〜言うてお呉んなさるない、餘程御酒が這入つてござりますなア』酒エ飲んでも飲まいでも勤める所は屹度勤めると云ふのだ』ハ、ハ、ハ、師直だすな』もろの言ひ様で角が立つと云ふ奴だ』口合言うて居なはる』時に駕籠屋一寸分銅屋で一杯飲つて來たんぢや、何うも斯う面白うて堪らぬ』ヘエ……』オイ駕籠屋お前等も面白いやろう』イエ、私等は別に面白いこととござりません』縦ひ面白くないとした所が、乃公が面白いと言うたら其處は、お前物に愛想と云ふものぢやないか、面白うござりますと一つ言ふていな、サア面白うござまいすと言うて』ヘエ左様なら面白うござります』左様なら面白うございすすと頼まれて據どころなく面白いのぢやな、心底から面白いと言ふて』甚い難儀ぢやなア』そや依つて最初から相手になるなど言つて居るのに』イヤ面白うて堪りません、心底から面白うございます』ナニ心底から面白い、何が然う心底から面白い、ム、ム、ヤア定めて乃公が酔うて居るさかい、夫れで心底から面白いと言ふんだらう、随分何うで面白からう』イエ、貴方面面白と言へと仰しやつたよつて』ア、然うか……イヤ是りやア悪かつた、分銅屋は何うも安うするな』私等